

2025年度 核融合科学研究所スクーリング・ネットワーキング事業
実施報告書

学生インターンシップ			
実施責任者	所属機関： [REDACTED]	学部学科等名・ 学年： [REDACTED] 5年	氏名： 浦山 純
実施責任者連絡先	電話： [REDACTED]	E-mail： [REDACTED]	
インターンシップ 派遣責任者	所属機関： [REDACTED]	職名及び本人との 関係： [REDACTED]	氏名： [REDACTED]
研修期間	2025年 10月 20日 ～ 2025年 月 10 24日 (5日間)		
研修先機関及び 受入責任者	機関等名： 京都大学エネルギー理工学研究所 受入責任者名： [REDACTED] E-mail： [REDACTED]		
得られた成果等 (行数は適宜増や してください)	<p>1. 本事業によって得られた成果のうち特筆すべき事項 プラズマ閉じ込め装置「ヘリオトロンJ」における、電子サイクロトロン共鳴加熱装置の今年度初の立ち上げおよびコンディショニング作業に従事した。具体的には、ジャイロトロンの動作原理や制御システムを理解した上で、マニュアルに基づく起動手順や、チャージ電圧の計算による過電圧防止などの実務的な運用技術を習得した。</p> <p>2. その成果が核融合分野の人材育成に果たした（果たすと期待される）事項 厳重な安全管理（放射線管理やインターロックの重要性）や、実験室間の密な連携体制を実際に経験できた。実際のプラズマ実験現場での緊張感や、トラブル発生時の冷静な対処プロセスを経験したことは、核融合分野の研究・開発に関わる中で重要な基盤となる。</p> <p>3. 研修先研究者（グループ）の熱意、態度、研究レベル等に関して参考となる事項 装置稼働中はオペレーターが常駐し、常に数分おきの発射状況を監視する体制が徹底されており、安全に対する意識の高さに刺激を受けた。 また、機器トラブルが発生した際も、直ちに波形データを確認して原因を特定し、迅速に対処する姿は、技術者として参考になった。</p> <p>4. 今後改善すべき点について参考となる事項 立ち上げ期間のため、具体的な成果は挙げられなかったため、日程をもう少し遅らせることができればデータ解析などが出来たと考える。</p>		

	<p>5. 本年度に引き続き次年度も同じ目的（あるいはそれに準ずる目的）で研修を計画している場合、本年度と異なる点及びその理由 該当なし</p> <p>6. 研修の概要、特に重要な課題などについて 京都大学エネルギー理工学研究所にて、ヘリオトロン J の ECH 装置を用いたプラズマ生成・加熱実験の立ち上げ作業に参加した。安全講習や施設見学を経て、ジャイロトロンのパルス幅拡張を含むコンディショニングを実施した。特に、高電圧を扱う際の安全確保と、詳細なパラメータ管理の重要性を学んだ。</p>
<p>インターンシップ における単位認定 状況</p>	<p><input type="checkbox"/>単位認定済 <input checked="" type="checkbox"/>希望しなかった <input type="checkbox"/>制度なし</p>
<p>備考</p>	